

(1日本史プリント2-5)

第2章 5. 平安朝廷の形成 a,平安京の確立と蝦夷との戦い

①奈良朝末期 [1 光仁] 天皇の即位

- ・ [2 天武] 系の天皇から [3 天智] 系の天皇への移動
- ・ [4 藤原] 氏の権力の回復 百川 (式家)・永手 (北家) らの台頭

② [5 桓武] 天皇の政治

1) [6 794] 年 山背国 [7 長岡] 京へ遷都

藤原種継 (式家) 暗殺事件 → [8 早良親王]、大伴氏などを排斥



長岡京造営中止 → [9 平安] 京の造営・遷都 ([10 794] 年) = 以後 [11 平安] 時代

2) 東北地方 (現在の [12 岩手] 県方面) への勢力拡大 = [13 蝦夷] 攻撃、農民の移住をすすめる

780 蝦夷の豪族 [14 伊治皆麻呂 (これほりのあきまろ)] の乱

789 蝦夷の族長 [15 阿豆流為 (アヅルイ)] の反乱 → 政府軍大敗

→ 802 征夷大將軍 [16 坂上田村麻呂] が帰順させる → [17 胆沢] 城をおき鎮守府を移す

3) 二大事業 (平安京の造営と東北での蝦夷との戦い) → 財政難へ

→ 805 桓武天皇、[18 徳政] 論争を経て、二大事業を打ち切る

孝謙 (称徳) 天皇の死後、天皇となった [19 光仁] 天皇は政治再建政策につとめ、ついで即位した [20 桓武] 天皇は784年平城京から山背国 [21 長岡京] に遷都した。しかし長岡京造営を主導した [22 藤原種継] が暗殺されると [23 794] 年 [24 平安京] に再遷都、以後、源頼朝が鎌倉に幕府をひらくまでの約 400年間を [25 平安] 時代という。

このころ東北地方では、[26 蝦夷] の族長 [27 阿豆流為] の活躍により政府軍が大敗する事件が発生していた。これにたいし、[28 坂上田村麻呂] が征夷大將軍となり攻撃、彼は阿豆流為を帰順させた。

東北地方での戦いと平安京の造営という二大政策は、国家財政や民衆にとって大きな負担となるという議論がだされ、805年、桓武天皇は二大事業を [29 停止] した。

b. 平安初期の政治改革

① 桓武天皇・・・律令体制の立て直しを図る

ア) 地方政治・・・[30 勘解由使] をおく = [31 国司] の取締り強化

勘解由使 = 32 国司交代時の不正を監督する

イ) 公民の負担軽減を図る、班田を6 → [33 12] 年に

[34 公出挙] の利息の引き下げ (50% → 30%)、[35 雑徭] の日数を半減 (60日 → 30日)

ウ) 兵制・・・[36 健児] = [37 郡司] の子弟や有力農民の志願者を用いる

(← [38 軍団]) と兵士を廃止 = 徴兵制による兵士の質の低下に対応)

② [39 嵯峨] 天皇の政治

1) [40 平城太上天皇 (薬子)] の乱・・・平城上皇派 (藤原仲成、薬子兄妹を破る → 藤原式家の没落)

2) 藤原 [41 冬嗣] (北家)、[42 藏人頭] の地位に = 43 天皇からの勅語の伝達や臣下の取り次ぎ → 藤原北家の繁栄へ

3) [44 檢非違使] の設置 = 45 京都の治安維持 (犯罪人の檢挙 → 後には裁判のもあたる)

◎ [46 令外官] = 令に規定された官職とは別の新たな官職。政治や社会の実態を繁栄 (勘解由使・藏人頭・檢非違使など)

④ 法の整備

1) 格 = 47 律令の補足や訂正 式 = 48 施行細則
三大格式 = [49 弘仁格式] (嵯峨天皇)、貞観格式 (朱雀天皇)、延喜格式 (醍醐天皇)

2) 令の解釈の統一 = [50 令義解]、[令集解]

桓武天皇は、地方政治の改革に力を入れ、[51 勘解由使] を設けて国司の交替に際しての事務の引継ぎをきびしく監督させた。また兵士の質が低下したことを受けて [52 郡司] の子弟や有力農民などからなる [53 健児] を採用した。さらに [54 班田収授] を励行させるため6年1班であった班田の期間を [55 12] 年 (一紀) 1班に改めた。さらに公出挙や雑徭の負担の軽減などをすすめて、公民たちの維持をめざした。

810年、兄 [56 平城] 太上天皇と対立した [57 嵯峨] 天皇は迅速に兵を出して兄の郡を打ち破った。この際に、天皇は秘書官長としての [58 藏人頭] が設け、藤原 [59 冬嗣] を任命した。また平安京内の警察にあたる [60 檢非違使] を設けた。この職は、のちには [61 裁判] もおこなうようになり、京の統治をになう重要な職となっていった。なお、このように令に定められていない新しい官職を [62 令外の官] という。

c. 唐風文化と平安仏教

① 平安初期の文化 (～9世紀) = [63 弘仁貞観] 文化

(弘仁 = 嵯峨天皇、貞観 = 朱雀天皇の時代)

特徴 = [64 文章経国] の思想・・・文芸によって国家の隆盛をめざす

嵯峨天皇 → 唐の儀礼の採用、文化人を国政に登用

[65 唐] の強い影響を受ける

ア) 平安仏教、とくに [66 密教] 文化 イ) [67 漢] 文学の発展

② 文学・・・貴族の教養としての [68 漢文] を重視

勅撰漢詩文集 = 「凌雲集」「文華秀麗集」「経国集」

空海 「[69 文鏡秘府論]」 (漢詩文作成のための評論) 「[70 性靈集]」 (詩文集) など

③ 書道・・・[71 三筆] (嵯峨天皇、[72 空海] (「風信帖」)、橘逸勢) の活躍 = [73 唐] 様

④ 教育 [74 大学別曹] = 大学に付属する有力諸氏の寄宿舍

[75 綜藝種智院] = 庶民教育をめざす、[76 空海] がひらく